

# 東広島市内遺跡発掘調査報告書 1

-湯谷迫3号遺跡-  
-鶴田遺跡-

二〇一七

# 東広島市内遺跡発掘調査報告書 1

-湯谷迫 3号遺跡-

-鶯田遺跡-

2017

東広島市教育委員会





a 湯谷追3号遺跡(4区) 完掘写真(北から)



b 鶴田遺跡完掘写真(西から)



## は　し　が　き

東広島市は、長い歴史と伝統、恵まれた自然環境を背景にしながら、計画的なまちづくりを進めてきました。高速交通網の充実とともに、大学を中心とした学術研究機関の集積や既存産業の活性化はもとより、幅広い分野の産業が集積し、全国でもその成長が注目される都市となっています。

そして今、社会経済情勢が大きく変化する新しい時代において、「未来にはばたく国際学術研究都市～ともに育み、人が輝くまち～」の将来都市像のもと、「日本一住みよいまち」の実現に向けて全力を傾注しています。

今回発掘調査が実施された西条町寺家・土与丸地区は、西条盆地の北部に位置しています。周辺には、弥生時代の拠点的集落や、安芸国分寺などの古代の遺跡、中世～近世の集落跡などが集中し、近代以降は行政的にも中心的な場所として栄えた地区です。

また、JR山陽本線沿線に位置しており、近年の宅地開発と商業施設など企業の立地が進んでいる地区でもあります。

本報告書は、店舗新築及び住宅団地造成に伴って実施した発掘調査の成果を記録したものです。地域の歴史を解明する一助となり、埋蔵文化財の保護に対する理解を深めていただくための資料として広く活用されることを願っております。

なお、発掘調査及び報告書作成にあたり、御指導、御協力をいただきました関係各機関、研究者の皆様及び地元の方々に対し、深く感謝いたします。

平成29年3月

東広島市教育委員会

教育長 津森 究

# 東広島市内遺跡発掘調査報告書 1

## 目 次

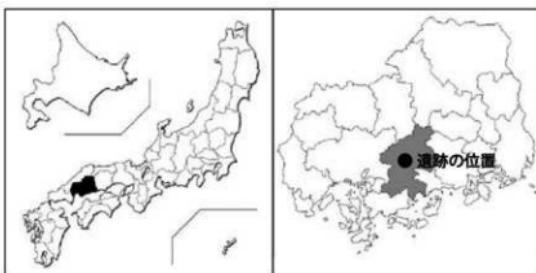
- 1 湯谷迫3号遺跡
- 2 鶩田遺跡

## 卷頭図版目次

a 湯谷迫3号遺跡（3区）完掘写真（北から） b 鶩田遺跡完掘写真（西から）

## 例 言

- 1 本書は、東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が発掘調査を実施した、（仮称）ドラッグコスマス西条寺家店新築工事に係る湯谷迫3号遺跡、土与丸分譲地に係る鶩田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査（現地調査）は平成27（2015）年度に、整理・報告書作成作業は平成28（2016）年度に実施し、主査：石垣敏之と埋蔵文化財調査員：吉田由弥が担当し、市教委職員が協力した。
- 3 本書で使用した方位は、世界測地系座標北（国土座標第Ⅲ系）である。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は、次のとおりである。  
SB：掘立柱建物跡、SD：溝状遺構、SK：土坑、SX：性格不明遺構、P：柱穴・ビット
- 5 調査で得られた資料については、すべて東広島市教育委員会が保管している。



広島県東広島市及び遺跡の位置

東広島市西条町寺家

ゆだにさこ  
湯谷迫3号遺跡

## 例　　言

- 1 本書は、平成27・28（2015・2016）年度に東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が株式会社エム・ワイ・ティから委託を受けて発掘調査を実施した、（仮称）ドラッグコスモス西条寺家店新築工事に係る湯谷追3号遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺構の実測・写真撮影は、石垣が行った。遺物の実測は埋蔵文化財調査員：吉田由弥が、写真撮影は石垣が行った。
- 3 本書の内容は調査関係者で検討し、執筆・編集は石垣が行った。
- 4 遺物実測図と写真図版の番号は同一である。
- 5 第1図は国土交通省国土地理院発行の1:25,000 地形図『安芸西条』を使用した。第2・3図は東広島市発行の1:2,500 東広島市地形図（O - 7）を使用した。

## 本 文 目 次

I	はじめに	1-1
II	遺跡の位置と環境	1-2
III	遺構と遺物	1-5
IV	まとめ	1-11

## 挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図（1:25,000）	1-3
第2図	湯谷追3号遺跡周辺地形図（1:2,500）	1-6
第3図	湯谷追3号遺跡遺構配置図（1:300）	1-8
第4図	湯谷追3号遺跡出土遺物実測図（1:3）	1-9

## 表 目 次

表1	湯谷追3号遺跡出土遺物観察表	1-9
----	----------------	-----

## 図 版 目 次

図版扉	完掘全景（北から）	図版2 a. SX1完掘（東から）
		b. SX1完掘（北から）
図版1 a.	1区完掘近景（西から）	c. P7石材検出状況（東から）
b.	2A区完掘近景（北から）	d. SD2完掘（東から）
c.	3区完掘近景（北から）	e. 出土遺物
d.	3区ピット群完掘（北から）	f. 出土遺物

## I はじめに

湯谷迫3号遺跡は、(仮称) ドラッグコスモス西条寺家店新築工事に伴って広島県東広島市西条町寺家字湯谷迫で発掘調査が実施された。以下、調査に至る経緯を概述する。

平成27年3月6日付けで株式会社コスモス薬品から東広島市教育委員会教育長へ文化財の有無及び取扱いについて協議があった。東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）は、分布調査（現地踏査）を実施した結果、平成27年3月12日付け、東広教文第554号で遺跡の有無及び範囲を確認するための試掘調査が必要な旨を回答した。平成27年3月31日付けで試掘調査の依頼があり、市教委が試掘調査を実施した。その結果、事業計画範囲の一部で掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットなどを多数検出したため、平成27年4月24日付け、東広教文第6号で湯谷迫3号遺跡を確認したことを回答した。

その後、市教委では、遺跡の現状保存や計画変更による遺跡の保存について事業者と協議を重ねた結果、計画変更によって遺跡の大部分を盛土保存することとなったが、擁壁部分については、記録保存も止むを得ないとして基本合意した。

平成27年7月27日付けで、株式会社コスモス薬品から埋蔵文化財発掘の届出（土木工事の届出）が提出された。大部分は盛土保存ため慎重工事の対象となったが、擁壁部分については現状保存が困難であると判断され、記録保存のための事前の発掘調査が必要な旨を平成27年8月12日付け、東広教文第341号で通知した。

平成27年8月27日付けで株式会社コスモス薬品から市教委あてに発掘調査の依頼が提出され、平成27年9月9日付け、東広教文第341号で承諾する旨回答した。平成27年9月15日付けで、工事施行者である株式会社エム・ワイ・ティと発掘調査の業務委託契約と覚書が締結され、平成27年10月19日から10月26日まで発掘調査（現地調査）を実施した。報告書作成作業及び収蔵作業は平成28年7月8日付けで契約を締結して実施した。

本章は、以上のような経緯を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当地の文化財資料として、また文化・歴史探究の一助として広く活用していただければ幸いである。

事業者である株式会社コスモス薬品及び株式会社エム・ワイ・ティ、調整等を図っていただいたフィールドコンサルタント株式会社から発掘調査・整理作業・報告書作成作業の便宜を図っていただいた。また、発掘調査にあたって、土地の所有者や地域の方々の多大なご協力を得た。末筆ながら記して心から感謝の意を表したい。

## II 位置と環境

湯谷迫3号遺跡<sup>(1)</sup>は、東広島市西条町寺家に所在する。東広島市は、広島県南部のほぼ中央に位置する、人口約18万人の都市である。市域の中央には標高約200mの西条盆地が広がり、平坦部を黒瀬川が蛇行して南流し、その周囲を標高400～600m級の山々が取り囲んでいる。当遺跡は西条盆地北部にあたり、龍王山(575.1m)の南西部に広がる平坦部に立地している。

市内では、旧石器時代から近世・近代に至るまでの遺跡が数多く確認されており、ここでは当遺跡周辺の遺跡について概観していく。

旧石器時代の遺跡としては、五楽遺跡<sup>(2)</sup>が石器の散布地として知られている。また、集落跡としては広島大学構内の西ガガラ遺跡(西条鏡山)で、後期旧石器に比定される住居跡が検出されている。

縄文時代の遺跡としては、刈又池遺跡<sup>(3)</sup>で、石器や土器片が採集されている。また、三ツ城古墳<sup>(4)</sup>の墳丘盛土からは縄文晩期の土器や石器が出土している。

弥生時代の遺跡は多数が確認されているが、弥生前期の遺跡は少なく、中期後半ごろから遺跡数が増加する傾向にある。

前期の遺跡としては、友松3号遺跡<sup>(5)</sup>において、溝状造構から前期の土器が多数出土している。集落跡としては、团子遺跡<sup>(6)</sup>や諏訪神社南遺跡<sup>(7)</sup>が挙げられ、竪穴住居跡や溝状造構などが検出されている。また、貞付谷遺跡<sup>(8)</sup>や小西遺跡<sup>(9)</sup>では木葉文を有する壺が出土している。

中期の集落跡は、磯松池遺跡<sup>(10)</sup>、諏訪神社周辺遺跡<sup>(11)</sup>、古市1号遺跡<sup>(12)</sup>、团子山5号遺跡<sup>(13)</sup>などがあり、吹越遺跡<sup>(14)</sup>からは焼失した竪穴住居跡が検出されている。また、助平2号遺跡<sup>(15)</sup>や金平山遺跡<sup>(16)</sup>では、弥生中期から古墳時代初頭にかけて継続する集落が確認されている。墳墓としては、藤が迫墳墓群<sup>(17)</sup>で弥生中期後半～中期終末期の木棺墓と土坑墓が検出されている。

後期では、貞付谷遺跡、大横3号遺跡<sup>(18)</sup>、古市4号遺跡<sup>(19)</sup>、徳政遺跡<sup>(20)</sup>、助平1号遺跡<sup>(21)</sup>、大横2号遺跡<sup>(22)</sup>などでは竪穴住居跡や貯蔵穴が検出されており、弥生後期の集落跡が多数見つかっている。また、青谷1号遺跡<sup>(23)</sup>では環濠と思われる溝から弥生後期から古墳初頭の遺物が多量に出土している。一方、再加工された細形銅剣が出土した横田1号遺跡<sup>(24)</sup>や青銅製の斧が出土した大横3号遺跡のような弥生時代後期の拠点的集落が対峙する丘陵上に存在する状況などが徐々に判明して来ている。

墳墓については、助平1号遺跡や横田1号遺跡から土坑墓が検出されているほか、狐が城遺跡<sup>(25)</sup>から墳墓が検出されている。

古墳時代の集落跡としては、古市4号遺跡、友松3号遺跡、徳政遺跡、古市2号遺跡<sup>(26)</sup>、大横2号遺跡、貞付谷遺跡などが挙げられる。古市2号遺跡の竪穴住居跡内からはミニチュア土器や鏡形土製品・船形土製品・土製管玉などが出土し、淨福寺遺跡(西条町助実)からはミニチュア土器と滑石製品が多量に出土している。古墳としては、5世紀前半に築造された県下最大規模の前方後円墳である三ツ城第1号古墳が挙げられる。また、竪穴式石



- 1 湯谷追3号道路 2 五条道路 3 刈池跡 4 三ツ城古墳 5 友松3号道路 6 团子道路 7 諏訪神社南道路  
 8 貞付谷道路 9 小西道路 10 磐松池道路 11 諏訪神社周辺道路 12 古市1号道路 13 团子山5号道路  
 14 吹越道路 15 助平2号道路 16 金平山道路 17 藤が迫墳墓群 18 大横3号道路 19 古市4号道路  
 20 德政道路 21 助平1号道路 22 大横2号道路 23 青谷1号道路 24 横田1号道路 25 狐が城道路  
 26 古市2号道路 27 助平古墳 28 藤が迫第2・3号古墳 29 大横第2号古墳 30 史跡安芸国分寺跡  
 31 安芸国分寺周辺道路 32 大地面道路 33 平田道路 34 寺家城跡 35 山崎1号道路 36 山崎2号道路  
 37 才の木古墳群 38 大横古墓 39 古市3号道路 40 御建道路 41 貞松道路 42 近信道路 43 四日市道路

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

室を内部主体とする助平古墳<sup>(27)</sup> や横穴式石室を内部主体とする藤が迫第2・3号古墳<sup>(28)</sup>、大櫛第2号古墳<sup>(29)</sup>などがある。

古代には安芸国分寺<sup>(30)</sup>が建立され、周辺には安芸国分寺周辺遺跡<sup>(31)</sup>が存在し、安芸国府の存在が指摘されている。また、鋳造工房があったとされる大地面遺跡<sup>(32)</sup>、掘立柱建物跡が検出された平田遺跡<sup>(33)</sup>、円面硯や転用硯などが出土した青谷1号遺跡、などが確認されており、当該地域が古代において重要な地域であったと考えられる。

中世になると、城仏土居屋敷跡（八本松飯田）、寺家城跡<sup>(34)</sup>、狐が城跡などの城館跡が多く確認されているほか、山崎1号遺跡<sup>(35)</sup>・2号遺跡<sup>(36)</sup>遺跡などの集落跡も確認されている。墳墓としては、才の木古墓群<sup>(37)</sup>、大横古墓<sup>(38)</sup>、古市1号遺跡、古市3号遺跡<sup>(39)</sup>などがある。また、御建遺跡<sup>(40)</sup>では、中世山陽道の一部と推定される道路遺構が検出され、中世末～近世初頭頃の遺構と遺物が出土している。

近世の遺跡としては、掘立柱建物跡が検出された貞松遺跡<sup>(41)</sup>、前期の屋敷跡が検出された近信遺跡<sup>(42)</sup>がある。近世西国街道沿いに発展した宿場町である四日市遺跡<sup>(43)</sup>からは、建物跡や醸造遺構などが検出され、江戸時代から近代の陶磁器・土器などが多量に出土している。また、横田1号遺跡から近世墓が検出されている。

計

- 湖沼谷3号跡遺跡（当遺跡）

3・三枝路：「東広島市西条塚集落の右辺」「[広島]」第19集 芸術家の会1988

3・広島県道地図2 因島・東広島市・安芸郡：広島県教育委員会1994

4・史跡・三城古墳発掘調査報告書：財团法人東広島市教育文化振興事業団2004

4・友松2号・3号追跡発掘調査報告書：東広島市教育委員会2014

6・「古子道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会2004

7・講師神社跡道跡発掘調査報告書：東広島市教育委員会2005

8・「呉合谷道路」：平山半蔵路・呉合谷道路：財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1992

9・「古子道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会2004

10・「磯松池跡道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会2008

11・講師神社跡道跡発掘調査報告書：財团法人東広島市教育文化振興事業団1995  
〔市内道路跡地内歴史文化財発掘調査報告書〕：東広島市教育委員会2000

12・古市1号跡道跡：「西条第一土器区画整理事業地内歴史文化財発掘調査報告書」：東広島市教育委員会1992

13・「古市1号跡道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会2015

14・「吹越跡道跡発掘調査報告書」：財团法人東広島市教育文化振興事業団1997

15・「伊2号跡道跡」：西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕：広島県教育委員会・財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1985

16・「金平山道路」：「平山半蔵路・貢谷道跡」：財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1992

17・「広島市文化財登録申請書告9号」：広島県教育委員会1971

18・大根横3号跡道跡：「大根跡道跡」：財团法人東広島県埋蔵文化財調査センター・建設省中国地方建設局広島国工事務所1985

19・古市4号跡道跡：「西条第一土器区画整理事業地内歴史文化財発掘調査報告書」：東広島市教育委員会1992

20・「歴政道跡道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会1982

21・「伊1号跡道跡」：西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕：広島県教育委員会・財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1983

22・大根横2号跡道跡：「大根跡道跡」：財团法人東広島県埋蔵文化財調査センター・建設省中国地方建設局広島国工事務所1985

23・「古市1号跡道跡発掘調査報告書」：財团法人東広島市教育文化振興事業団2002

24・「橋田1号跡道跡発掘調査報告書」：建設一部・株式会社・企画・エンジニアリング株式会社・東広島市教育委員会2012(18)と同じ

25・「瓦小城跡」：「西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：広島県教育委員会・財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1983

26・古市2号跡道跡：「西条第一土器区画整理事業地内歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：東広島市教育委員会1992

27・「伊2号跡道跡」：「西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：東広島市教育委員会1993

28・「鹿原道跡道跡」：「広島市文化財登録申請書告9号」：広島県教育委員会1971

29・「大根横2号跡道跡」：「大根跡道跡」：財团法人東広島県埋蔵文化財調査センター・建設省中国地方建設局広島国工事務所1985

30・安芸国分寺古東方道路跡発掘調査報告書：財团法人東広島市教育文化振興事業団1997  
〔史跡安芸国分寺跡道跡発掘調査報告書〕：財团法人東広島市教育文化振興事業団1999  
〔史跡安芸国分寺跡道跡発掘調査報告書〕：財团法人東広島市教育文化振興事業団2000～2007

31・「安芸国分寺古東方道路跡発掘調査報告書〔書類1～5〕」：財团法人東広島市教育文化振興事業団2009  
〔磐門道跡・安芸国分寺古四輪車跡〕：東広島市教育委員会2015

32・「大河瀬道跡発掘調査報告書」：財团法人東広島市教育文化振興事業団2008

33・「平田道跡発掘調査報告書」：東広島市教育委員会2000

34・「守家城道跡」：「守家城跡道跡・近石道跡」：財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1993

35・「山崎1号跡道跡発掘調査報告書」：財团法人東広島市教育文化振興事業団1995

36・「木の本古墳」：「西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：広島県教育委員会・財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1983

37・「猪の古墳」：「西条第一土器区画整理事業に伴う歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：広島県教育委員会1993

38・「古市3号跡道跡」：「西条第一土器区画整理事業地内歴史文化財発掘調査報告書〔1〕」：東広島市教育委員会1992

40・「伊那跡道跡発掘調査報告書〔1～5〕」：財团法人東広島市教育文化振興事業団2010～2013

41・「吉松道跡発掘調査報告書〔1〕」：東広島市教育委員会2000

42・「笠置道跡」：「東条城道跡・近石道跡」：財团法人広島県埋蔵文化財調査センター1993

43・「山田道跡発掘調査報告書〔1～5〕」：財团法人東広島市教育文化振興事業団2004～2006

### III 遺構と遺物

#### (1) 調査の概要

発掘調査の要因となった店舗の新築は、盛土を行って実施されるため、構造物のほとんどは地下の埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲で計画されたが、擁壁の一部と下水の配管部分については、発掘調査の対象となった。

調査区は、幾つかに分断されることになり、便宜上1~4区に分けて（2区はA・Bに細分）実施した。なお、1区は下水の配管に伴うもので、2~4区は擁壁施工に伴うものである。

発掘調査は、試掘調査によって得られたデータ（遺構面までの深さ、堆積土・遺物包含層の状況、遺物の出土状況など）を基に、重機を使用して表土を掘削し、遺構検出面を人力で精査して行った。

1・2区及び3区の北側は、後世の削平が著しく、表土（耕作土）直下で遺構（地山）面が露出し、遺構の遺存状態も悪かった。なお、水田面が分かれている1・2区と3・4区は約1mの高低差がある。標高は、1・2区 226.15m ~ 226.2m、3・4区 224.8m ~ 225mと、耕作地を構築するための削平によって遺構面はそれぞれほぼ平坦であった。

3区の南側及び4区の西側は、堆積土が若干残っており、ピットを中心とした遺構が検出された。

1区及び4区の調査区東半は緩やかに傾斜した谷地形となっており、遺構が確認できなかった。

検出された遺構は、溝状遺構4条、性格不明遺構3基、ピット34基である。

遺物は、土師質土器・陶磁器（輸入及び国産）・石製品などがコンテナ（340mm×540mm×100mm）1.5箱分出土した。そのほとんどは図示し得ないほどの小破片である。

出土した遺物は、水洗と注記作業を実施し、接合と復元作業、実測・写真撮影などの記録を行った。整理作業及び報告書作成作業を進めながら、保管のための分類・収蔵作業も実施した。

#### 調査体制

平成27・28年度

東広島市教育委員会

教育長：下川聖二（～平成28年6月3日）、津森 究（平成28年7月1日～）

生涯学習部長：大河 淳（～平成28年3月31日）、天神山勝浩（平成28年4月1日～）

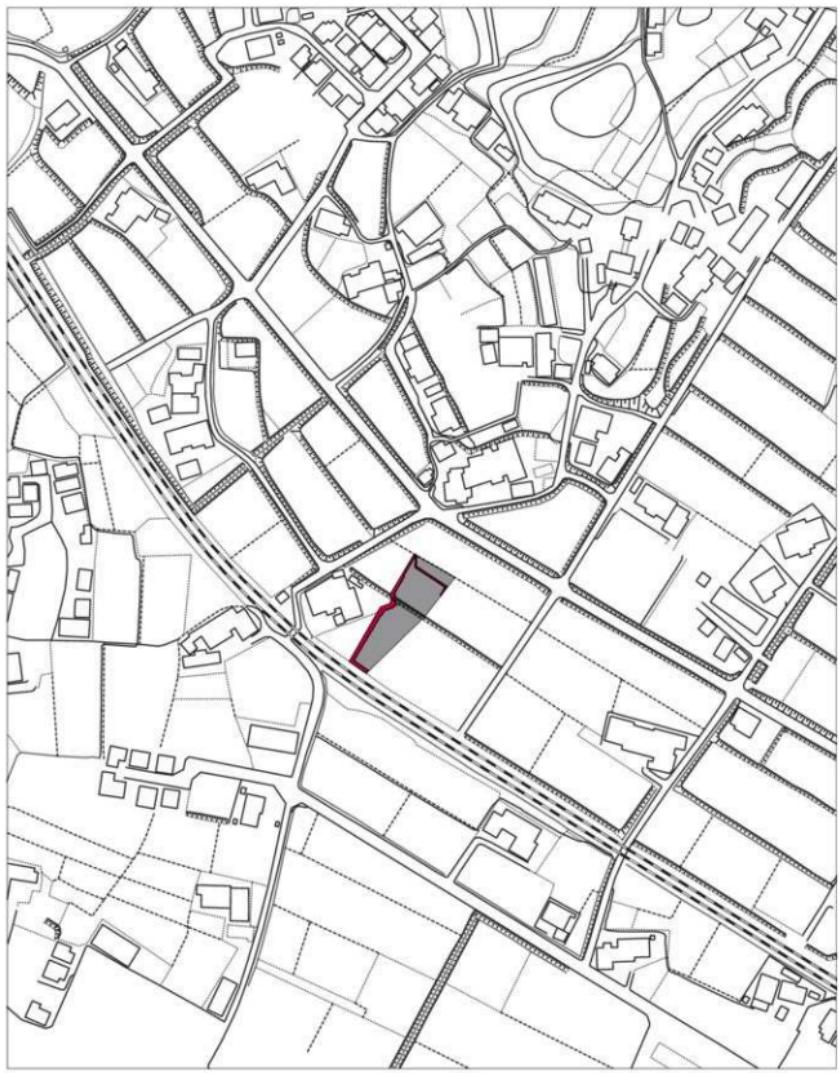
生涯学習部次長兼文化課長：藤岡孝司（～平成28年3月31日）、

文化課長：福光直美（平成28年4月1日～）

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

調査 調査係主査：石垣敏之、埋蔵文化財調査員：吉田由弥（～平成28年8月31日）

事務 調査係主査：萩原真史、事務職員：片山由紀子



■は湯谷追3号跡の範囲、■は今回の調査範囲

第2図 湯谷追3号跡周辺地形図 (1:2,500)

## (2) 遺構と遺物

### 溝状遺構 SD1～4

#### SD1 (第3図)

3区の南端と4区の西端で検出され、調査区外へと延びる東西方向の溝状遺構である。幅約0.25m、深さ0.03mを測る。現耕作土の直下から掘り込まれており、近代以降のものと考えられる。

#### SD2 (第3図、図版2)

3区の南端で検出され、調査区外へと延びる南北方向の溝状遺構である。最大幅約0.2m、深さ0.02～0.09mを測る。検出状況から、SD1より古いことは確認できたが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

#### SD3 (第3図)

3区の南側で検出され、調査区外へと延びる南北方向の溝状遺構である。最大幅約0.5m、深さ0.02mを測る。遺物が出土していないため、詳細は不明である。

#### SD4 (第3図)

4区の西端で検出され、調査区外へと延びる東西方向の溝状遺構である。幅約0.25m、深さ0.03mを測る。SD1とほぼ同じ灰色砂質土が堆積しており、掘り込まれた遺構面に違いはあるが、時期的な差はほとんどないものと考えられる。

### 性格不明土坑 SX1～3

#### SX1 (第3図、図版2)

2B区の南側で検出された、平面形が不整な性格不明土坑群である。検出状況で、東西方向約1.8m、深さ0.1mを測り、東側は調査区外へ延びている。著しい削平を受けており、遺存状態は極めて悪い。

#### 出土遺物 (第4図1、図版2)

今回の発掘調査で出土した遺物の約4分の1は、このSX1から出土したもので、須恵器1点を除いて土師質土器の破片から構成されている。

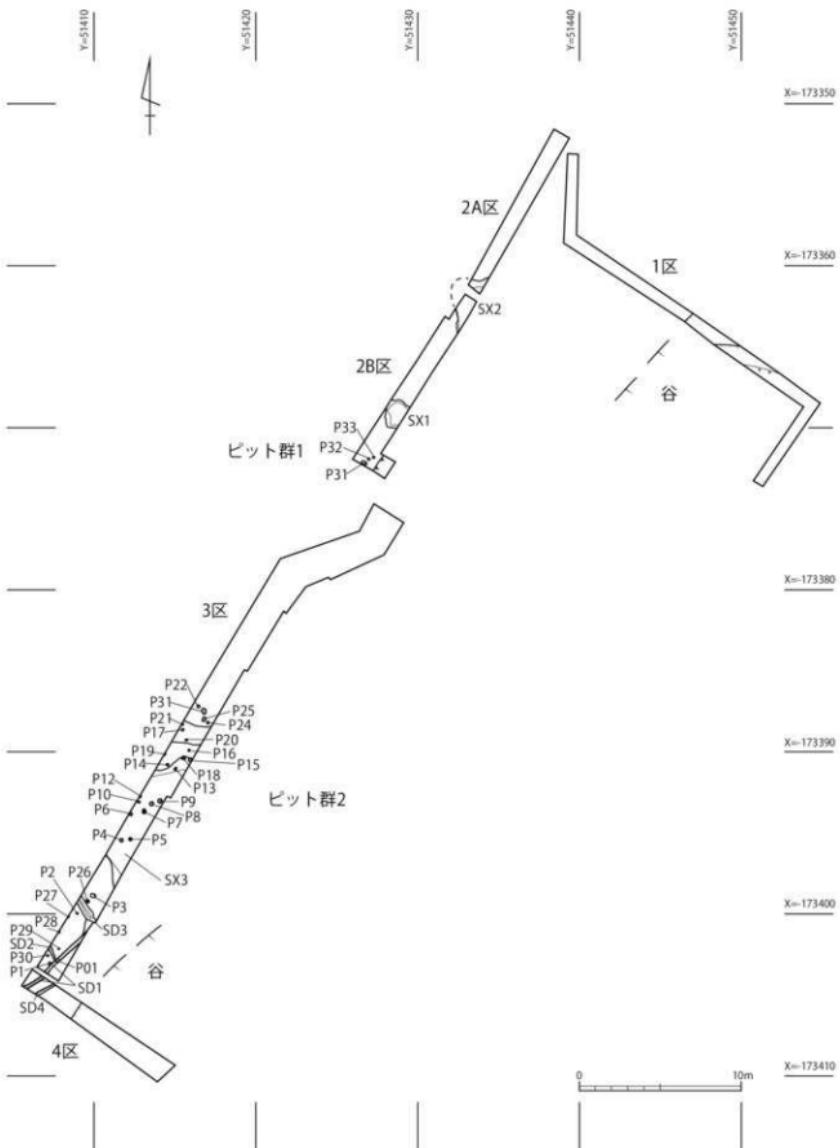
1は、土師質土器のすり鉢で、体部は厚く、わずかに片口部分が遺存する。内面には9条1単位とするクシメが確認できるが、磨滅が著しい。口縁端部は平坦に仕上げ中央部が僅かに窪む。

#### SX2 (第3図、図版2)

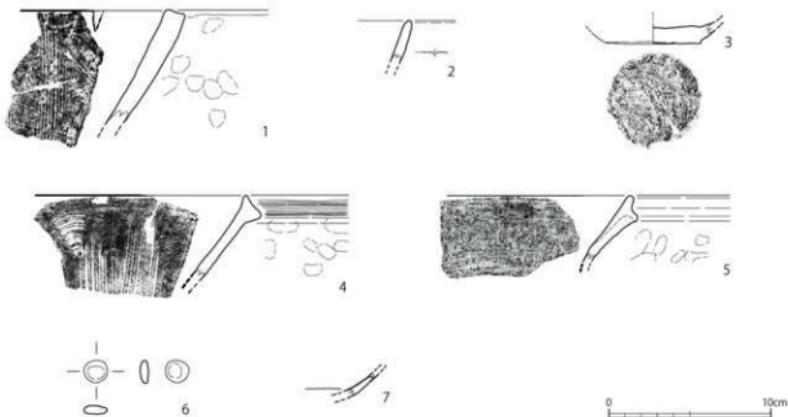
2A区南端から2B区北端で検出された、平面形が不整な性格不明土坑群である。検出状況で、東西方向約4m、深さ0.1mを測り、東側及び西側は調査区外へ延びている。著しい削平を受けており、遺存状態は極めて悪い。

#### 出土遺物 (第4図2、図版2)

2は、輸入陶磁器の龍泉窯系青磁碗である。口縁下部に僅かに残る沈線は、雷文の一部と考えられるが、小破片のため詳細は不明である。



第3図 湯谷追3号遺跡遺構配置図 (1:300)



第4図 出土遺物実測図 (1 : 3)

表1 湯谷迫3号遺跡 遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	部種	法身 (cm) (法身は復元値)	胎土	焼成	色調	調整	備考
1	SX1	土師質土器	すり鉢	口径: 一 壁高: 一 底径: 一	密	良	外面: 淡褐色 内面: に赤い黄褐色	外面: ナデ。指壓圧痕 内面: ナデ。クシメ (9条1単位)	片口
2	SX2	青磁	碗	口径: 一 壁高: 一 底径: 一	密	良	外面: 明オリーブ灰褐色 内面: 明オリーブ灰褐色	外面: 施釉。波文 内面: 施釉	青文帯か?
3	表土(北半)	土師質土器	杯	口径: 一 壁高: 残存 1.4 底径: 5.7	密	良	外面: 淡黃褐色 内面: 淡黃褐色	外面: ロクロナデか (風化が著しい) 内面: ロクロナデ	底部: 回転糸切りか
4	表土南区	土師質土器	すり鉢	口径: 一 壁高: 一 底径: 一	要	不良	外面: 灰白色 内面: 灰白色	外面: ナデ。指壓圧痕、クシメ (口縁部) 内面: ハケメ後クシメ (7条1単位)	
5	表土南区	土師質土器	鍋	口径: 一 壁高: 一 底径: 一	粗	不良	外面: 灰白色 内面: 灰白色	外面: ナデ。指壓圧痕 内面: ナデ後ハケメ	外面: スズ付着 内面: コケ付着
6	表土南区	石製品	碁石	長さ: 15 幅: 14 厚さ: 0.5 重さ: 18g	—	—	黒色	—	橢円形研磨されている
7	表探	陶器	皿	口径: 一 壁高: 一 底径: 一	密	良	外面: 灰白色 内面: 灰白色	外面: 施釉。下半部は無釉 内面: 施釉。回転波文	

### SX3（第3図、図版1）

3区の中央部で検出された、平面形が不整な性格不明土坑群である。検出状況で、東西方向最大幅10.5m、深さ0.3mを測り、東側及び西側は調査区外へ延びている。ピットはこのSX3を完掘した後で検出したものである。

### ピット群1（第3図）

2区の南端で検出された、ピットが3基集中する地区である。ピットの規模は、直径0.1~0.4m、深さは0.15m程度とかなり浅い。

### ピット群2（第3図、図版1）

3区の南半部で検出された、ピットが30基以上集中する地区である。ピットの規模は、直径0.15~0.4m、深さ0.1~0.45mを測る。埋土は、概ね褐灰~黄灰色を呈するやや砂質土であった。石を伴うものが5基（P6・7・9・14・18）存在するが、調査区が限られることもあり、建物跡などの規則性は確認できなかった。

P6の石は、平坦面を上にしており、根石と考えられる。P7は拳大の石4つで柱材を固定していたものと考えられる。

### 遺構外の出土遺物（第4図3~7、図版2）

3~7の何れも表土若しくは表探資料である。

3~5は、土師質土器である。3は杯か皿の底部である。風化が著しく、底面の回転糸切りの痕跡が僅かに確認できる程度である。4はすり鉢で、内面に7条1単位とするクシメが2単位確認できる。口縁部には、つまみ出しによって断面三角の鍔条の張り出しを作る。5は肩部が外側に屈曲し、逆「く」字状に広がる鍋である。口唇部は、粘土貼付けによる上方への突出部を作り、口縁下部に断面三角の鍔条の張り出しに仕上げている。

6は、直径1.4~1.5cmの梢円形を呈する石製品である。黒色の表面は研磨されており、碁石の「黒石」と考えられる。

7は、輸入陶磁器の白磁である。見込みに沈線を有し、体部外面の下半を露胎としているが、小破片のため詳細は不明である。

## IV まとめ

湯谷迫3号遺跡の発掘調査では、溝状遺構4条、性格不明遺構3基、ピット34基を検出し、土師質土器・陶磁器（輸入及び国産）・石製品などの遺物が出土した。限られた調査範囲であったため、遺跡の広がりや全容を確認することはできなかったが、中世～近世の集落跡の一端をうかがうことができた。

### 湯谷迫3号遺跡とその周辺について

本遺跡は、開発に伴う試掘調査で確認された遺跡である。試掘調査の結果、開発範囲の西端で遺構が確認されたが、大部分（東側）は、谷状地形及び削平された低丘陵であり遺跡が確認されなかった。一方、発掘調査の成果から、遺跡は西側にも広がっている可能性が高いが、開発の対象外であり、個人住宅となっているため確認することはできなかった。

なお、本遺跡周辺は昭和40年代に耕地整理が実施されており、旧地形が把握しにくい状況でもあった。しかし近年、開発に伴う埋蔵文化財の試掘調査が進み、現状では平坦な地形に見える地域でも、小さく低い尾根と谷が複雑に入り組んでおり、その小さく低い尾根上に弥生時代からの集落が存在していることが分かつてきている。

### 遺物について

出土した遺物は、何れも図示し得ないほどの小破片がほとんどであった。その多くは、表土（耕作土・堆積土）とSX1から出土したものである。種別は、ほぼ土師質土器が占め、陶磁器（輸入・国産）、石製品が若干出土している。陶磁器は、「雷文を有する青磁碗（第4図2）」と「白磁碗 or 皿（第4図7）」のほか、近世の陶磁器が数点存在している。

調査区も限られ、遺物の出土点数が少量のため断定はできないが、本遺跡は、中世末（16世紀後半）を中心とした中世～近世の集落跡と考えられる。

### おわりに

寺家地区、特に今回の調査区周辺については、新設されるJR山陽本線寺家駅に近いため、今後も開発が続していくと考えられる。幸い、今回は遺跡の多くの部分について盛土保存することができたが、道路や大規模住宅団地のように現状保存が困難な状況も考えられるため、文化財保護と開発との調整がますます必要とされる一方で、発掘調査による考古学的な発見も相次いでおり、今後の動向が重要視される地区である。



# 図 版



完堀近景（北から）





a. 1区完掘近景（西から）



b. 2A区完掘近景（北から）



c. 3区完掘近景（北から）



d. 3区ピット群完掘（北から）

図版2



2a. SX1完掘 (東から)



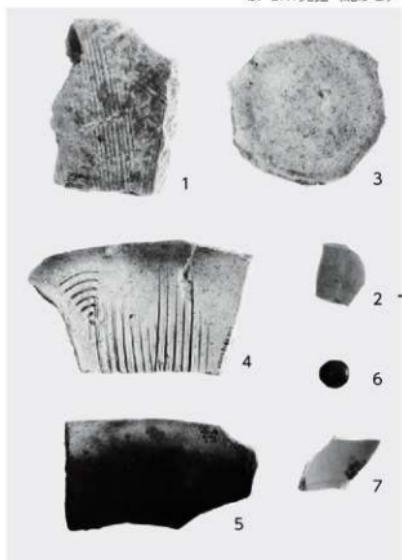
c. P7石材検出状況 (東から)



b. SX1完掘 (北から)



d. SD2完掘 (東から)



e.出土遺物



f.出土遺物

東広島市西条町土与丸

さぎた  
鷺田遺跡

## 例　　言

- 1 本書は、平成27・28（2015・2016）年度に東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が有限会社大興から委託を受けて発掘調査を実施した、土与丸分譲地に係る鶯田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺構の実測・写真撮影は、石垣が行った。遺物の実測は埋蔵文化財調査員：吉田由弥が、写真撮影は石垣が行った。
- 3 本書の内容は調査関係者で検討し、執筆・編集は石垣が行った。
- 4 遺物実測図と写真図版の番号は同一である。
- 5 第1図は国土交通省国土地理院発行の1:25,000地形図『白市』を使用した。第2・3図は東広島市発行の1:2,500東広島市地形図（O-8・9）を使用した。

## 本　文　目　次

I	はじめに	2-1
II	遺跡の位置と環境	2-2
III	遺構と遺物	2-5
IV	まとめ	2-14

## 挿　図　目　次

第1図	周辺遺跡分布図（1:25,000）	2-3
第2図	鶯田遺跡周辺地形図（1:2,500）	2-6
第3図	鶯田遺跡遺構配置図（1:200）	2-7
第4図	SB-1実測図（1:40）	2-9
第5図	P25・26実測図（1:10）	2-11
第6図	出土遺物実測図（1:3）	2-12

## 表　　目　　次

表1	鶯田遺跡出土遺物観察表	2-13
----	-------------	------

## 図　版　目　次

図版扉	完掘全景（西から）	d. SB1-P5断面（南から）
図版1a.	調査前近景（西から）	e. P3遺物出土状況（東から）
	b. 完掘全景（西から）	f. P25遺物2・3出土状況（南から）
	c. 東半完掘近景（西から）	g. P25遺物4出土状況（南から）
	d. SB1完掘（西から）	h. P25遺物5出土状況（南から）
図版2a.	SD1完掘（北から）	i. P26遺物6・7出土状況（南から）
	b. SB1-P1礎盤石検出状況（南から）	j. P26遺物8出土状況（南から）
	c. SB1-P3断面（南から）	図版3 出土遺物

## I　はじめに

鷺田遺跡は、土与丸分譲地に伴って広島県東広島市西条町土与丸字鷺田で発掘調査が実施された。以下、調査に至る経緯を概述する。

平成27年3月16日付けで有限会社大興（以下「事業者」という。）から東広島市教育委員会教育長へ文化財の有無及び取扱いについて協議があった。東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）は、分布調査（現地踏査）を実施した結果、平成27年3月20日付け、東広教文第571号で遺跡の有無及び範囲を確認するための試掘調査が必要な旨を回答した。平成27年4月1日付けで試掘調査の依頼があり、市教委が試掘調査を実施した。その結果、事業計画範囲の全域で掘立柱建物跡の柱穴と考えられるビットなどを多数検出した。対象範囲の西側は、道路改良に伴って発掘調査が実施された鷺田遺跡に接しており、遺跡の範囲が広がっているものと判断し、平成27年4月24日付け、東広教文第3号で鷺田遺跡を確認したこと回答した。

その後、市教委では、遺跡の現状保存や計画変更による遺跡の保存について事業者と協議を重ねた結果、宅地部分については盛土によって保存することとなったが、道路部分については恒久的な工作物と判断されるため記録保存することで基本合意した。

平成27年4月27日付けで、事業者から埋蔵文化財発掘の届出（土木工事の届出）が提出された。宅地部分は盛土保存されるが、道路部分については記録保存のための事前の発掘調査が必要な旨を平成27年5月22日付け、東広教文第62号で通知した。

平成27年6月16日付けで事業者から市教委あてに発掘調査の依頼が提出され、平成27年11月2日付け、東広教文第205号で承諾する旨回答した。平成27年11月20日付けで、業務委託契約と覚書が締結され、平成28年1月21日から2月19日まで発掘調査（現地調査）を実施した。

なお、報告書作成作業及び収蔵作業は平成28年6月23日付けで契約を締結して実施した。

本章は、以上のような経緯を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当地の文化財資料として、また文化・歴史探究の一助として広く活用していただければ幸いである。

事業者である有限会社大興、測量用基準杭の打設や現地作業等の調整を図っていただいた佐久間コンサルタントにおいては、発掘調査・整理作業・報告書作成作業の便宜を図っていただいた。また、発掘調査にあたって、土地の所有者や地域の方々の多大なご協力を得た。末筆ながら記して心から感謝の意を表したい。

## II 位置と環境

鷺田遺跡<sup>(A)</sup>は、東広島市西条町土与丸に所在する。東広島市は、広島県南部のほぼ中央に位置する、人口約18万人の都市である。市域の中央には標高約200mの西条盆地が広がり、平坦部を黒瀬川が蛇行して南流し、その周囲を標高400～600m級の山々が取り囲んでいる。当遺跡は西条盆地北部にあたり、龍王山(575.1m)の南東部に広がる平坦部に立地している。

市内では、旧石器時代から近世・近代に至るまでの遺跡が数多く確認されており、ここでは当遺跡周辺の遺跡について概観していく。

旧石器時代の遺跡としては、広島大学構内の西ガガラ遺跡(西条鏡山)で、後期旧石器に比定される住居跡が検出されている。また、五楽遺跡(西条町吉行)や鐘錠原池遺跡<sup>(1)</sup>では、旧石器を表探している。

縄文時代の遺跡としては、三ッ城第1号古墳(西条中央)の墳丘盛土下層からは縄文晩期の土器と石器が出土している。このほか、西ガガラ遺跡、和田平遺跡(西条町福本)などが知られている。

弥生時代の遺跡は多数が確認されているが、弥生前期～中期前半の遺跡は少なく、中期後半ごろから遺跡数が増加する傾向にある。

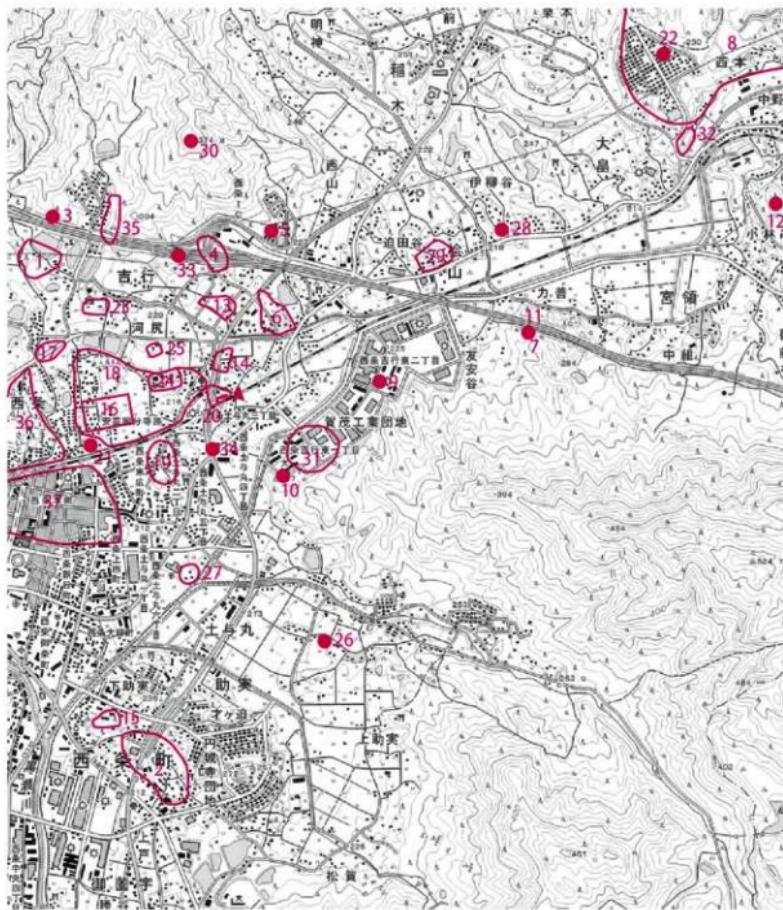
前期～中期の遺跡としては、友松3号遺跡(西条町寺家)や小西遺跡・諏訪神社南遺跡(西条西本町)が挙げられ、やや低地から確認される傾向があるが、調査例が少ないので詳細はまだ不明である。中期後半の集落としては、宮領1号遺跡(高屋町宮領)、下上戸遺跡<sup>(2)</sup>が調査されている。

後期になると遺跡数が飛躍的に増加する。鐘錠原上遺跡<sup>(3)</sup>・石佛遺跡<sup>(4)</sup>・後迫1号遺跡<sup>(5)</sup>、奥田遺跡<sup>(6)</sup>、才が迫遺跡<sup>(7)</sup>では堅穴住居跡や貯蔵穴が検出され多量の土器が出土している。また、西条盆地北東部の高屋町でも西本遺跡群<sup>(8)</sup>や東広島ニュータウン遺跡群(高屋高美が丘)のように住宅団地開発に伴って多くの遺跡が確認され、集落跡の状況や墳墓などによる埋葬の様子をうかがうことができる。これらの成果によって、広義の西条盆地として重要な地区であることが判明した。

古墳時代に入ると、5世紀前半に築造された県下最大規模の前方後円墳である三ッ城第1号古墳(西条中央)に代表されるように、東広島市域全般で多くの古墳が作られるようになる。

古墳としては、箱式石棺を内部主体とする大唐田古墳<sup>(9)</sup>、堅穴式石室を内部主体とする豊ヶ崎古墳<sup>(10)</sup>や才が迫第1号古墳<sup>(11)</sup>、前方後円墳である奥之谷古墳<sup>(12)</sup>、鏡鑑2面と勾玉や太刀が出土した白鳥古墳(高屋町郷)などがある。集落跡としては、濱田遺跡<sup>(13)</sup>、是石遺跡<sup>(14)</sup>などが挙げられる。是石遺跡の堅穴住居跡内からは土師器の高壺と手捏ね土器が出土している。淨福寺遺跡<sup>(15)</sup>からは祭祀遺物群と考えられるミニチュア土器と滑石製品が多量に出土している。

古代になると、安芸国分寺<sup>(16)</sup>が建立される。また、円面鏡や転用鏡などが出土した青谷1号



A 鶯田遺跡 1 鏊原池道跡 2 下戸戸道跡 3 鏊原上道跡 4 石佛道跡 5 後追1号道跡 6 奥田道跡  
 7 才が追道跡 8 西本道跡群 9 大唐田古墳 10 ケ崎古墳 11 才が追第1号古墳 12 奥之谷古墳  
 13 濱田道跡 14 石道跡 15 浄福寺道跡 16 史跡安芸国分寺跡 17 大地面道跡 18 安芸国分寺周辺道跡  
 19 平田道跡 20 鶯田道跡 21 聖門道跡 22 西本6号道跡 23 西粟寺道跡 24 西粟寺道跡 25 徳丸屋敷跡  
 26 栗ノ木屋敷跡 27 城の土居館跡 28 藥師丸土居屋敷跡 29 松山氏居館跡 30 トミが城跡 31 向城跡  
 32 古慈喜城跡 33 極楽寺古墓群 34 藤田古墓 35 大田畠遺跡 36 御建道跡 37 四日市道跡

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

遺跡（西条町西条）や鋳造工房があったとされる大地面遺跡<sup>[17]</sup>などが確認されており、重要な役割を担っていた地域であると考えられている。また、安芸国分寺の周辺には、掘立柱建物跡が検出された安芸国分寺周辺遺跡<sup>[18]</sup>、平田遺跡<sup>[19]</sup>、鷺田遺跡<sup>[20]</sup>、是石遺跡のほか、古代～中世の人形が出土した聲門遺跡<sup>[21]</sup>などの集落跡が広がっている。

注目されるのは高屋町杵原の西本6号遺跡<sup>(22)</sup>で、7世紀後半～8世紀前半に「解除」を行った施設の可能性が高い遺跡である。

中世になると、西楽寺跡<sup>(23)</sup>、西楽寺遺跡<sup>(24)</sup>、徳丸屋敷跡<sup>(25)</sup>、栗ノ木屋敷跡<sup>(26)</sup>、城の土居館跡<sup>(27)</sup>、薬師丸土居屋敷跡<sup>(28)</sup>、松山氏居館跡<sup>(29)</sup>といつたいわゆる「土居屋敷」やトミが城跡<sup>(30)</sup>、向城跡<sup>(31)</sup>、古慈喜城跡<sup>(32)</sup>などの城跡が多く確認されている。集落としては、下上戸遺跡から周間に溝を巡らせた四面庇を持つ掘立柱建物跡が検出されている。墳墓・古墓としては、極楽寺古墓群<sup>(33)</sup>、石佛遺跡、是石遺跡、藤田古墓<sup>(34)</sup>などがある。その他、石佛遺跡からは13世紀後半頃の土師質土器の窯跡が検出され、大田畠遺跡<sup>(35)</sup>からは鉄滓が出土したと伝え「たら跡」の存在が推測される。

また、御建遺跡<sup>(36)</sup>では、中世山陽道の一部と推定される道路遺構が検出されているほか、四日市遺跡<sup>(37)</sup>に先行する時代の遺構と遺物が出土している。

近世以降の遺跡としては、JR 西条駅の南側に近世西国街道沿いに発展した宿場町である四日市遺跡があり、建物跡や釀造遺構などが検出され、江戸時代から近代の陶磁器・土器が多量に出土している。

20

- (備) 藤田道跡 (当道跡)

  - 〔広島県道跡図集〕(呉市・東広島市・安芸郡・芦我郡) 広島県教育委員会1994
  - 「下仁田町跡発掘調査報告書」財团法人東広島市教育文化振興事業団1996
  - 〔藤原上原跡〕「山陽古道車道建設に伴う整理文化財発掘調査報告書」(V) 財团法人広島県理研文化財調査センター1996
  - 〔石佛道跡〕「山陽古道車道建設に伴う整理文化財発掘調査報告書」(V) 財团法人広島県理研文化財調査センター1990
  - 〔後ノ道跡〕「藤原上原跡発掘調査報告書」財团法人東広島市教育文化振興事業団1997
  - 〔夷田道跡〕「夷田・石見・鷹島・藤原」財团法人広島県理研文化財調査センター1989
  - 〔才が道跡〕「山陽古道車道建設に伴う整理文化財発掘調査報告書」(V) 財团法人広島県理研文化財調査センター1993
  - 〔西本町6丁跡発掘調査報告書〕(V) 財团法人東広島市教育文化振興事業団1996  
「西本町6丁跡発掘調査報告書」財团法人東広島市教育文化振興事業団1997
  - 〔西本町2・3・7丁跡発掘調査報告書〕(V) 財团法人東広島市教育文化振興事業団1999  
「西本町2・3・7丁跡発掘調査報告書」財团法人東広島市教育文化振興事業団2007
  - 〔人吉町古跡〕「荒茂工場跡地内遺構発掘調査報告書」広島県教育委員会1972
  - 〔越ヶ岳古墳〕「荒茂工場跡地内遺跡発掘調査報告書」広島県教育委員会1972
  - (1) 7と上記
  - 〔広島県周防道路図〕(呉市・東広島市・安芸郡・芦我郡) 広島県教育委員会1994
  - 〔瀬道田跡発掘調査報告書〕「瀬道田文化財調査報告書」東広島市教育委員会1988
  - 〔足守道跡〕「足守・石見・鷹島・藤原」財团法人広島県理研文化財調査センター1989
  - 〔淨福寺跡発掘調査報告書〕 広島県教育委員会1984
  - 〔安芸郡分合町道跡発掘調査報告書〕 財团法人東広島市教育文化振興事業団1997
  - 〔安芸郡安芸分合町道跡発掘調査報告書〕 財团法人東広島市教育文化振興事業団1999  
「安芸郡安芸分合町道跡発掘調査報告書」(V) 財团法人東広島市教育文化振興事業団2000～2007
  - 「人吉道跡発掘調査報告書」 財团法人東広島市教育文化振興事業団2008
  - 〔安芸郡分合町道跡発掘調査報告書〕 財团法人東広島市教育文化振興事業団2009
  - 〔伊田道跡発掘調査報告書〕 東広島市教育委員会2005
  - 〔瀬道田跡〕「夷田・石見・鷹島・藤原」 財团法人広島県理研文化財調査センター1989
  - 〔門脇道跡〕「安芸・安芸守・岡庭・因吉道跡」 東広島市教育委員会2015
  - 〔西本町6丁跡発掘調査報告書〕(V) 財团法人東広島市教育文化振興事業団1997
  - (2) 〔30〕「広島市北城跡発掘調査報告書」2) 広島県教育委員会1994
  - 〔内井町跡〕「荒茂工場跡地内遺構発掘調査報告書」 広島県教育委員会1972
  - 〔古吉野城跡発掘調査報告書〕 東広島市教育委員会1996
  - 〔柳家寺跡1・4号古跡〕「山陽古道車道建設に伴う整理文化財発掘調査報告書」(V) 財团法人広島県理研文化財調査センター1993
  - 〔藤田古跡〕「夷田・石見・鷹島・藤原」 財团法人広島県理研文化財調査センター1989
  - (3) 1と上記
  - 〔御井道跡発掘調査報告書1・2〕 財团法人東広島市教育文化振興事業団2010・2013
  - 〔西田町跡発掘調査報告書1・2〕 財团法人東広島市教育文化振興事業団2004～2006

### III 遺構と遺物

#### (1) 調査の概要

発掘調査は、試掘調査によって得られたデータ（遺構面までの深さ、堆積土・遺物包含層の状況、遺物の出土状況など）を基に、重機を使用して表土を掘削し、遺構検出面を人力で精査して行った。

調査区西側は、表土（耕作土・床土）、黄褐色（やや黄）土の堆積土の下に黄褐色（やや茶）土の遺構面を検出した。調査区東側は、現地表面から最も深い部分まで約1.8mあり、造成土（マサ土）・耕作土・造成土・耕作土、黄褐色土・暗褐色土の堆積土の下で黄褐色（やや茶）土の遺構面を検出した。

なお調査区の西側は、昭和61年度に財団法人広島県埋蔵文化財調査センターが国道375号線改良工事に伴って発掘調査を実施した調査区に隣接しており、その調査成果を引き継ぐ遺構が検出されると考えていた。しかし、調査区の西半部分には谷地形が折がっており、遺構が全く検出されなかったため、県が調査した遺構群との連続性は確認できなかった。

一方調査区東半部分では、溝状遺構や土坑、多数のピットが検出され、掘立柱建物跡が確認された。

検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構1条（近代の暗渠を除く）、土坑及び性格不明土坑8基、ピット約50基（掘立柱建物跡の柱穴を除く）である。

遺物は、弥生土器・須恵器・古代瓦・土師質土器・陶磁器（輸入及び国産）・瓦器・金属製品などがコンテナ（340 mm × 540 mm × 100mm）3箱分出土した。そのほとんどは図示し得ないほどの小破片である。

出土した遺物は、水洗と注記作業を実施し、接合と復元作業、実測・写真撮影などの記録を行った。整理作業及び報告書作成作業を進めながら、保管のための分類・収蔵作業も実施した。

#### 調査体制

平成27・28年度

東広島市教育委員会

教育長：下川聖二（～平成28年6月3日）、津森 究（平成28年7月1日～）

生涯学習部長：大河 淳（～平成28年3月31日）、天神山勝浩（平成28年4月1日～）

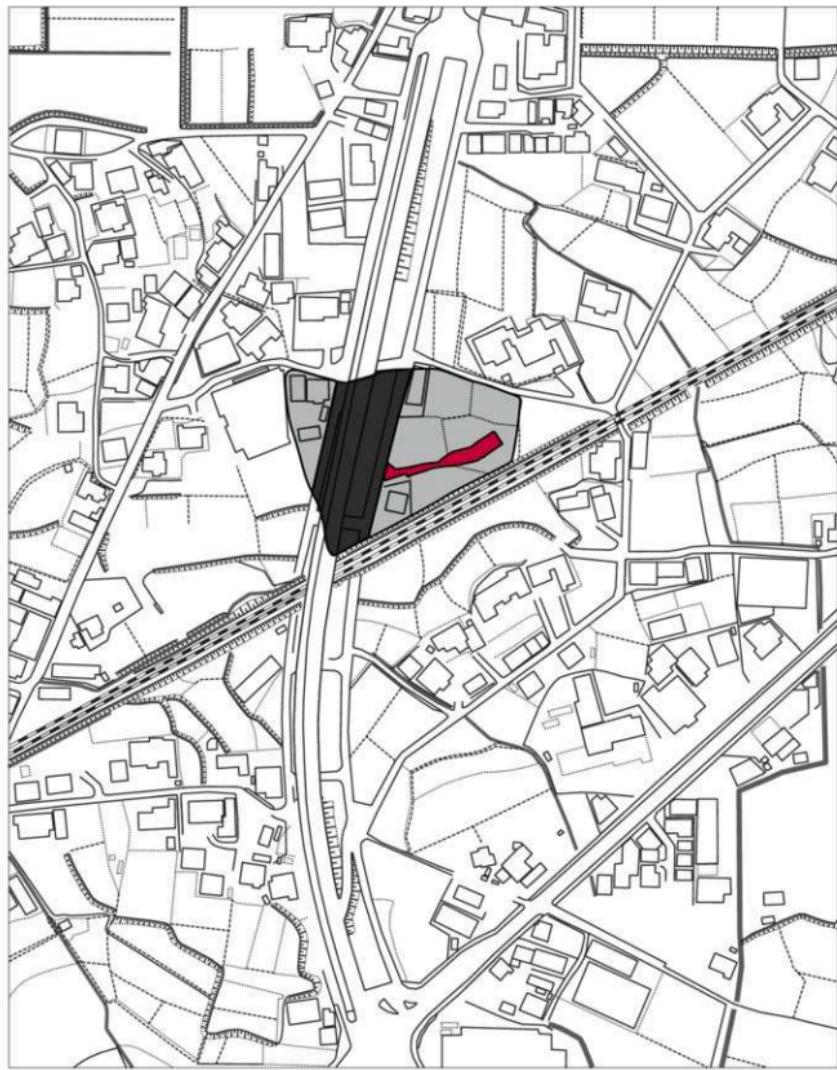
生涯学習部次長兼文化課長：藤岡孝司（～平成28年3月31日）

文化課長：福光直美（平成28年4月1日～）

参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三

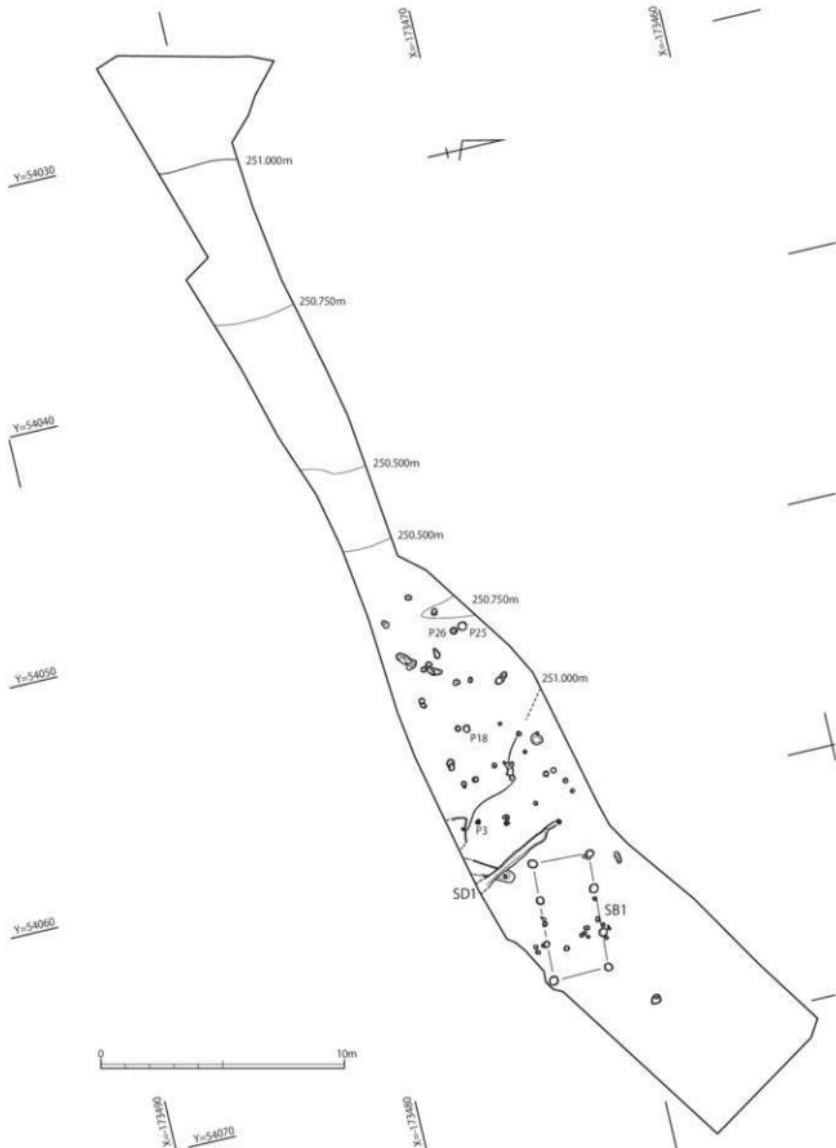
調査 調査係主査：石垣敏之、埋蔵文化財調査員：吉田由弥・日浦裕子

事務 調査係主査：萩原真史、事務職員：片山由紀子



■は鶴田遺跡の範囲、■は今回の調査範囲、■は(財)広島県埋蔵文化財調査センターの調査範囲

第2図 鶴田遺跡周辺地形図（1：2,500）



第3図 鷺田遺跡遺構配置図 (1:200)

## (2) 遺構と遺物

### SB1 (第4図、図版1・2)

主軸が東西に向いた、柱間1間×3間(約2.4m×4.8m)の規模をもつ掘立柱建物跡である。柱穴の規模は、直径0.25m～0.4m、深さ0.25m～0.4mを測る。桁間は、南側が(西側からP1～P4)1.5m～1.8m～1.5m、北側が(西側からP5～P8)1.5m～1.8m～1.5mを測る。梁間は、西側が2.4m、東側が2.4mである。

柱穴の断面を観察すると、P1～P7は、柱痕と考えられる土層が柱穴の底部まで続いており、P8のみ中間部に板石を設置していることが確認できた。このP8の板石は平坦面を上に向けており、断面観察からも柱材の礎盤と考えて問題ないであろう。

一方、P4は細長い石材が斜めになつて検出されており、断面観察からも礎盤というより柱材を固定したものか抜き取り時に混入したものと考えたほうが妥当であろう。

### SD1 (第3図、図版2)

調査区の東半、SB1の西側で検出され、調査区外へと延びる南北方向の溝状遺構である。検出時の長さ3.8m、幅約0.35m、深さ0.05mを測る。堆積土は灰褐色土の単一層であった。

### ピット

### P3 (第3図、図版2)

調査区東半で検出されたピットである。規模は、直径約0.2m、深さは約0.3mを測り、堆積土は黒褐色土の単一層であった。ほぼ検出面で土師質土器の杯(第4図)が出土している。この杯は、全体の半分しか遺存しておらず、遺構面が削平を受けた際に破壊された可能性もある。

P18は、調査区東半で検出されたピットである。規模は、直径0.25m～0.3m、深さは約0.5mを測り、堆積土は黒褐色土の単一層であった。土師質土器・瓦器・輸入陶磁の白磁碗の小破片が出土している。

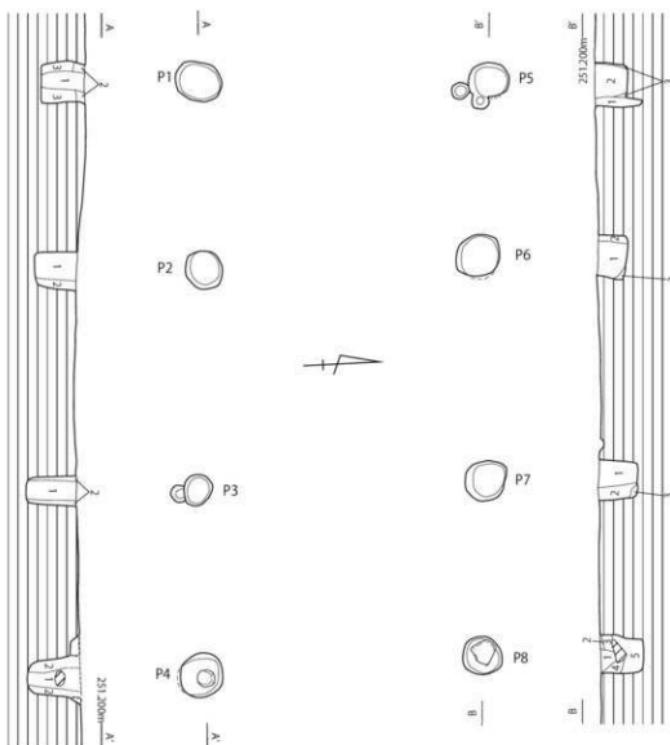
### P25 (第5図、図版2)

調査区東半で検出されたピットである。規模は、直径約0.35m、深さは約0.3mを測る。断面観察から、堆積土は柱痕と周りの埋戻し土が確認された。この柱痕からは、土師質土器皿が完形のまま4枚出土(第5図、第6図2～5)している。柱材を抜き取った後に1枚ずつ丁寧に置いた痕跡と考えられる。

このほか第6図9は、検出作業中に調査区際の配水用水路を掘り下げている際に出土したものであるが、大きさや完形であることが第6図2～5と類似しており、このP25の検出面で出土した可能性が高い。

### P26 (第5図、図版2)

調査区東半で検出されたピットである。規模は、直径約0.28m、深さは約0.32mを測る。断面観察から、堆積土は柱痕と周りの埋戻し土が確認された。この柱痕からは、土師質土器皿が4枚出土している(図示したのは第6図6～8の3枚)ほか、口縁部の破片1点が出土している。柱材を抜き取った後に置いたものと考えられるが、完形は柱穴の底部に置かれた1枚(第6図8)のみで、P25よりやや乱雑な印象を受けた。



#### P1土層説明

- 1 黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土の混じった土
- 2 1と同じ(地山土をまだらに含む、炭化物を微量に含む)
- 3 明褐色粘質土

#### P2土層説明

- 1 黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土の混じった土
- 2 1と同じ(地山土をまだらに含む)

#### P3土層説明

- 1 黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土の混じった土
- 2 1と同じ

#### P4土層説明

- 1 黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土の混じった土
- 2 1と同じ

#### P5土層説明

- 1 黒褐色粘質土
- 2 黒褐色粘質土(炭化物を若干含む)
- 3 黑褐色土と明褐色土の混じった土

#### P6土層説明

- 1 黑褐色粘質土と褐色粘質土の混じった土(地山フロックを含む)
- 2 黑褐色粘質土(褐色土を若干含む)
- 3 黑褐色土と明褐色土の混じった土

#### P7土層説明

- 1 黑褐色粘質土(褐色土をまだらに含む)
- 2 黑褐色土と褐色土の混じった土(地山ブロックを含む)
- 3 黑褐色土と明褐色土の混じった土

#### P8土層説明

- 1 黑褐色粘質土と灰褐色粘質土の混じった土
- 2 灰褐色粘質土(地山土をまだらに含む)
- 3 褐色粘質土(褐色土を若干含む)
- 4 明褐色粘質土(灰褐色粘質土を若干含む)
- 5 明褐色粘質土(灰褐色粘質土をまだらに含む、褐色を若干含む)



第4図 SB1 実測図 (1:40)

### 出土遺物（第6図、図版3）

タタキ目を有する弥生土器から近世の陶磁器までが出土しているが、ほとんど図示し得ないほどの破片である。1～9はピットから出土したもので、10～14は包含層から出土した。1～10は土師質土器である。

1は、杯である。底部から緩やかなカーブを描きながら立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。風化が著しく、調整等は確認できない。

2～9は、皿である。口径7.0cm～8.2cm、底径4.1cm～5.6cm、器高1.4cm～1.8cmを測り、7・9が若干大きい。底部は回転糸切り痕が残り、胎土は密で、焼成も良好である。色調は、2～6・8が灰白色、7・9が黄橙色を呈する。7・9は大きさも他より若干大きく、色調も異なる。2・6は砂粒を多く含み、3・8は仕上がりが丁寧である。

2～4・7・9は半球状の体部を持ち口唇部も厚ぼったいが、5・6は内傾気味にたちあがった後、緩やかなカーブを描く。一方8は、体部中央に明瞭な稜線を持ち、逆「く」字状を呈し、口唇部もややシャープである。

7は、見込み中央部に凹みを持つ。

2～5・8・9には、口唇部の一部に僅かな欠損がある。なお、6と7は完形ではないため、欠損の有無は不明である。3には焦げた様子もうかがえることから、灯芯を置くために意図的に切り欠き、燈明皿として使用したものと考えられるが、焦げ痕は薄く、短時間しか使用していない。また、その他の皿は、焦げ痕もないことから、燈明皿としての使用はなかった可能性が高い。

10は、柱状高台壺である。台部底面から一度内傾し、逆「く」字状に外反しながら立ち上がる。器高に対する「みこみ」の割合は50%である。

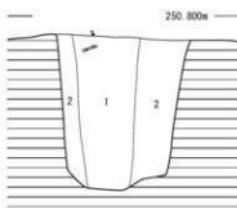
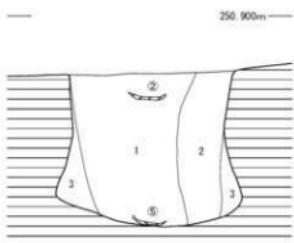
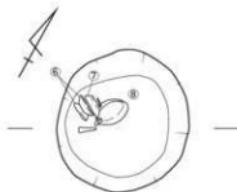
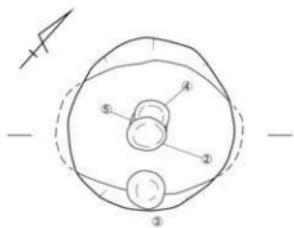
11～13は、輸入陶磁器の白磁である。

11・12は見込みに沈線を有し、11は体部外面の下部に無釉となっている。13は見込みに段を有し、蛇の目状の釉剥ぎが施され、高台部分は無釉である。

14は、布目を有する平瓦片である。

#### 註・参考文献

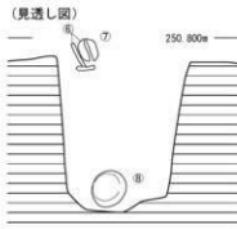
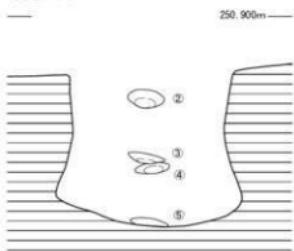
八峰 興「柱状高台考」『中世土器研究論集』中世土器研究会2001



P25 土層説明

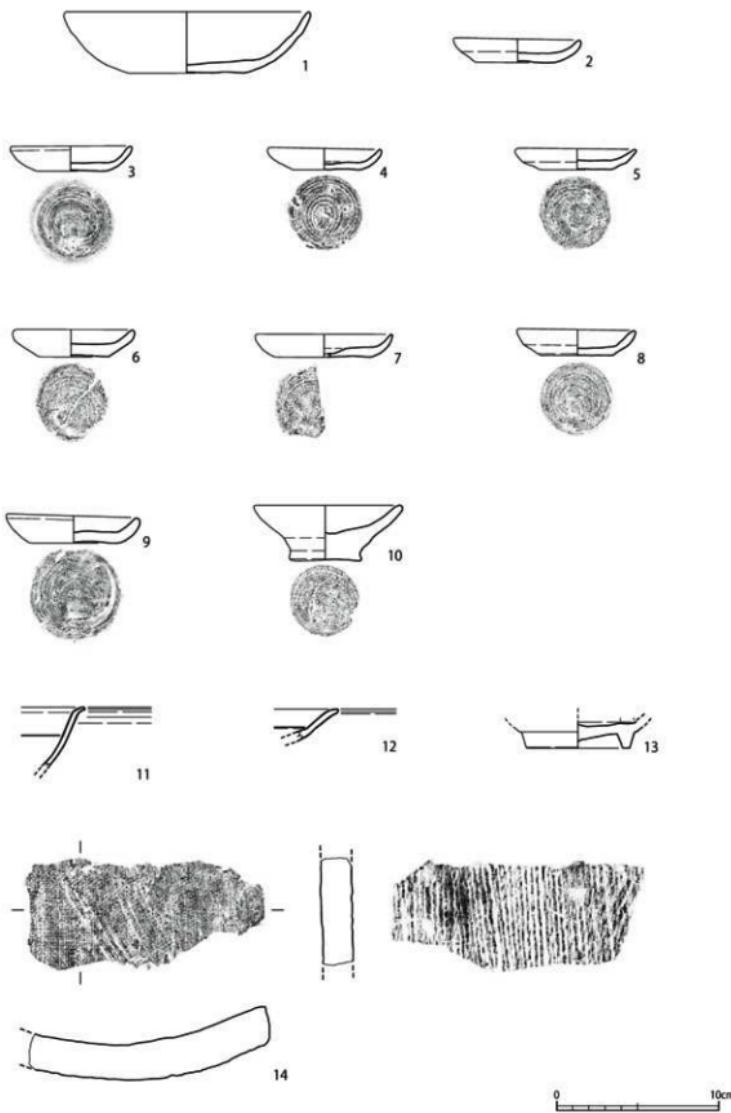
- 1 黒褐色粘質土
- 2 褐色砂質土
- 3 にがい黄褐色粘質土

(見透し図)



0 50cm

第5図 P25・26 実測図 (1:10)



第6図 出土遺物実測図 (1 : 3)

表1 鶯田遺跡 遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm) ( )は復元値	出土 状況	色調	調整	備考
1	P3	土師質土器	杯	口径：(15.1) 器高：42 底径：(7.0)	密 良	外面：灰白色 内面：浅黃褐色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：風化が著しいため不明
2	P25-(1)	土師質土器	小皿	口径：7.8 器高：15 底径：4.9	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きあり 砂粒を多量に含む
3	P25-(2)	土師質土器	小皿	口径：7.8 器高：15 底径：4.3	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きあり 底部有り(火炎面として使用か)
4	P25-(3)	土師質土器	小皿	口径：7.0 器高：14 底径：4.4	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きか？
5	P25-(4)	土師質土器	小皿	口径：7.4 器高：14 底径：4.4	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きか？ 見込みに細かい傷
6	P26-(1)	土師質土器	小皿	口径：7.5 器高：16 底径：4.3	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り
7	P26-(2)	土師質土器	小皿	口径：(9.4) 器高：14 底径：(5.8)	密 良	外面：浅黃褐色 内面：浅黃褐色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 見込中央部に凹み
8	P26-(5)	土師質土器	小皿	口径：7.3 器高：14 底径：4.5	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きか？
9	検出面中央	土師質土器	小皿	口径：8.2 器高：18 底径：5.6	密 良	外面：にぶい黃褐色 内面：にぶい黃褐色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り 口縁部に切欠きあり
10	包含層 東半	土師質土器	柱状高台形 (托)	口径：(9.1) 器高：34 底径：4.4	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	底部：回転条切り
11	包含層 東半	白磁	椀	口径：— 器高：— 底径：—	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：施釉 内面：施釉，回転線文	外側下部に無釉部分あり
12	包含層 東半	白磁	皿	口径：— 器高：— 底径：—	密 良	外面：明オーラープ灰色 内面：明オーラープ灰色	外面：施釉 内面：施釉，回転線文	
13	包含層 西半	白磁	椀か	口径：— 器高：— 底径：(6.4)	密 良	外面：灰白色 内面：灰白色	外面：施釉 内面：施釉	削り出し高台 高台部分は無釉 見込部分に段を有し、蛇の目釉洞
14	包含層 西半谷部	瓦	平瓦	残存高：6.6 残存幅：14.8 厚さ：2.3	密 良	両面：灰白色 凸面：灰白色	両面：布目压痕 凸面：純タキ压痕	

## IV まとめ

鷺田遺跡の発掘調査では、掘立柱建物跡、溝状造構、土坑及び性格不明土坑、ピットを検出し、弥生土器・須恵器・古代瓦・土師質土器・陶磁器（輸入及び国産）・瓦器・金属製品などの遺物が出土した。

なお、道路改良工事に伴い財団法人広島県埋蔵文化財調査センターが実施した調査成果との関連性が注目されたが、今回の調査区西側に谷があり、造構の連続性は確認できなかった。

### 掘立柱建物跡について

掘立柱建物跡 SB1は主軸が東西に向いた1間×3間の規模である。柱穴は、SB1-P8のみ礎盤となる板石が検出され、その他は、柱痕が底部まで達しており、SB1-P8のみ異なる状況が確認された。このSB1-P8を玄関として「ドマーザシキーナンド」の間取りも想定される一方、桁間は1.5m-1.8m-1.5mを測り、「中央を主室とし両側を庇」とする建物を想定することもできるが、いずれにせよ類例が少なく言及は避けたい。

### ピットについて

P25とP26からは、土師質土器の小皿がまとめて出土した。P25は完形品が4枚、P26は完形品1枚と破碎されたものが2枚出土している。両ピットとも断面を観察すると、柱痕と考えられる土層の中に、①ピットの底部、②ピットの中位（※P25のみ）、③ピットの上位（※検出面）と高低差を付けた状態で出土している。これらの小皿は、柱材が存在する状態では設置できないため、何れも柱材を引き抜いた後に順に置いていったものと考えられる。

なお、これらピットは調査範囲の都合上、相対するピットが確認できず掘立柱建物跡などとしては認識できなかった。

### 遺物について

出土した遺物は、何れも図示し得ないほどの小破片で、その多くは包含層から出土したものである。種別は、土師質土器と須恵器が大半を占める。土師質土器は、ピットからまとめて出土した小皿のほかは鍋などの破片が多くみられ、須恵器や古代瓦など安芸国分寺に関連する時代の遺物が存在する。輸入陶磁器は白磁のみが出土し、近世の国産陶磁器が数点存在している。

また、弥生時代末～古墳時代初頭頃と考えられるタタキ目を有する壺形土器が（同一個体だが図示し得なかった）出土しており、是石遺跡などとの関連性も考える必要があるかも知れない。

調査区も限られ、遺物の出土点数が少なく断定はできないが、本遺跡は12世紀後半～13世紀前半を中心とした集落跡と考えられ、中世前期の集落跡の一端をうかがうことができた。

## 図 版



完堀近景（西から）





a. 調査前近景（西から）



b. 完掘全景（西から）

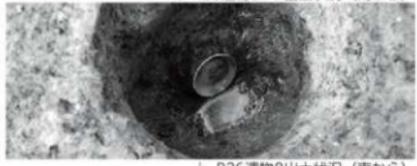
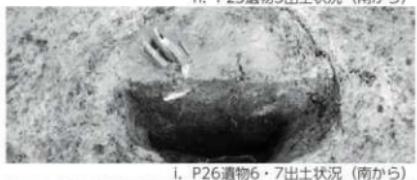
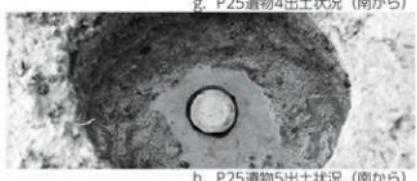
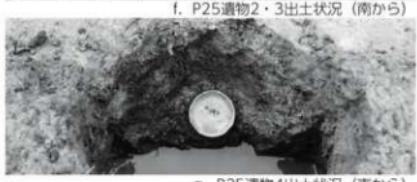
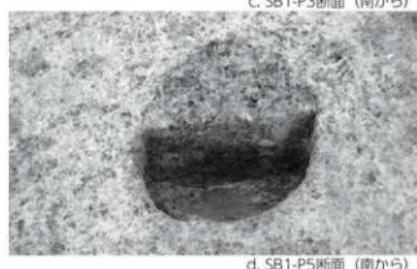
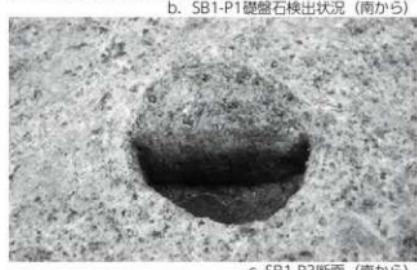
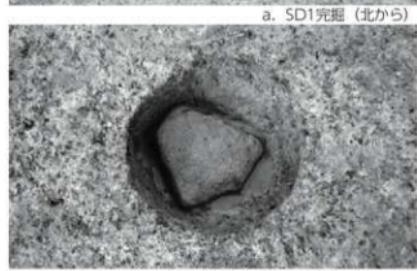


c. 東半完掘近景（西から）

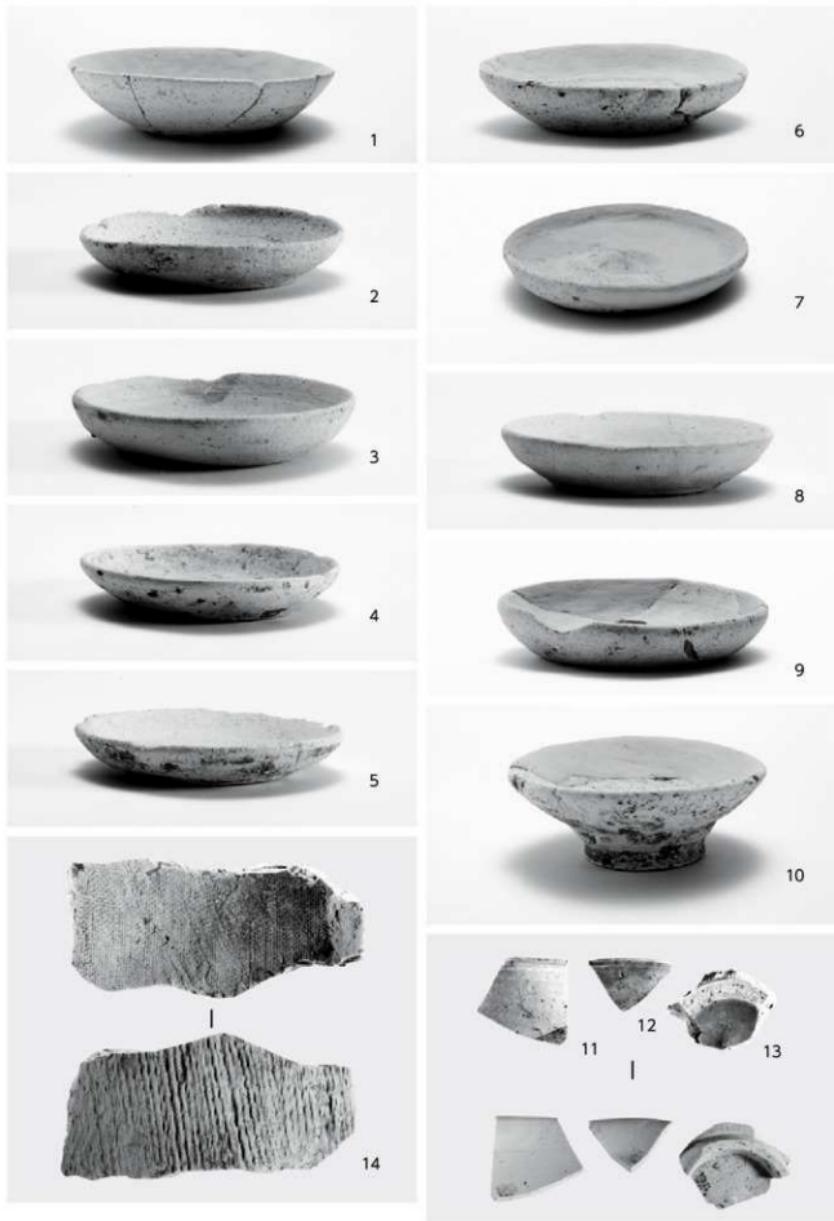


d. SB1完掘（西から）

図版2



図版3





## 報 告 書 抄 錄

東広島市教育委員会文化財調査報告書第55集  
**東広島市内遺跡発掘調査報告書1**

発行日 2017（平成29）年3月21日  
編集・発行 東広島市教育委員会  
〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号  
印 刷 大東印刷株式会社  
〒723-0052 広島県三原市皆実4丁目5-30